

**産業連関分析と
地域経済活性化への
アプローチ**

平成22年9月

**八戸市都市研究検討会
産業連関プロジェクトチーム**

目 次

はじめに.....	1
第 1 章 産業連関表の概念と特徴.....	2
第 2 章 平成 17(2005)年八戸市産業連関表の作成.....	14
第 3 章 平成 17(2005)年八戸市産業連関分析.....	33
第 4 章 八戸市のマクロ経済指標と個別産業の現状.....	43
第 5 章 地域経済活性化の方向性.....	58
おわりに.....	61
作業日程・名簿.....	64

産業連関分析と地域経済活性化へのアプローチ

はじめに

本報告は、第1回八戸市都市研究検討会において、研究テーマとして提起された「産業連関分析による地域経済活性化へのアプローチ」に関する、八戸市都市研究検討会産業連関プロジェクトチーム（以下産業連関PT）による最終報告である。

産業連関表とは、1年間（暦年）に、一定の地域（国内、青森県内、八戸市内）において生産された生産物（財・サービス）における産業相互間の関係及び産業と最終消費者間の取引関係を表した一覧表である。日本では総務省を中心に全国の産業連関表が5年ごとに作成されており、平成21年に平成17(2005)年全国産業連関表が公表された。この産業連関表を基に都道府県産業連関表が作成され、平成22年に平成17(2005)年青森県産業連関表が公表された。

本報告では、この全国産業連関表、青森県産業連関表を基に平成17(2005)年八戸市産業連関表を作成した。さらに作成した産業連関表を基に、八戸市の産業構造、八戸市における需要の波及効果について分析を行い、最後に分析結果を基に、八戸市経済活性化への提言を行った。

本報告は、以下の5章により構成される。第1章の「産業連関表の概念と特徴」では、まず産業連関表の概念及び前提について概括した後、産業連関表の導出方法を解説し、さらに産業連関表の見方、投入係数、需要の波及効果分析について説明し、最後に産業連関表の特徴と限界について述べた。第2章の「平成17(2005)年八戸市産業連関表の作成」では、日本における産業連関表の作成状況及び平成17(2005)年八戸市産業連関表の作成手順について説明し、作成した平成17(2005)年八戸市産業連関表に基づき、八戸市経済の構造分析及び機能分析を行った。第3章の「平成17(2005)年八戸市産業連関分析」では、平成17(2005)年八戸市産業連関表に基づき、普通建設事業、利子補給補助金、観光コンベンション事業、企業誘致事業、介護保険事業、電算システム導入事業の6事業について、需要の波及効果の分析を行った。第4章の「八戸市のマクロ経済指標及び個別産業の現状」では、人口、市民経済計算、事業所数、求人数・有効求人倍率、市民所得のマクロ指標、農林業、漁業、製造業、商業の個別産業について簡単な統計分析を行った。第5章の「地域経済活性化の方向性」では、平成17(2005)年八戸市産業連関表の分析結果を基に、八戸市経済活性化の方向性について提言した。

本報告を作成するにあたり、弘前大学地域共同研究センター（当時）の野崎道哉氏には、産業連関表の作成方法等について、有益なアドバイスを頂いた。また、青森県企画政策部統計分析課の土谷正光総括主幹、井口政和主事には、平成17(2005)年青森県産業連関表及び附属資料、産業連関表作成マニュアル等を提供頂き、また作成に関するアドバイスも頂いた。ここで野崎氏、土谷氏、井口氏には改めて感謝申し上げる。